

# 稲荷塾 A 会話 (英会話クラス) 募集

## 小5生～社会人



### 私(稲荷)の体験を通して紹介します。

～「A 会話 (稲荷塾英会話クラス)」～

「A 会話 (稲荷塾英会話クラス)」は特別なメソッド(方法、方式)です。これを私(稲荷)の体験を通して紹介します。私はかつて、「英語をしゃべれるようになりたい」「洋画を字幕なしに楽しめるようになりたい」と願いながら、多くの教材を試し、英会話スクールにも10年近く通いました。しかしダメでした。

英語圏に行って、そこで数年暮らすようなことでもない限り、これは決して達成することができない目標だと感じていました。ところが、道がありました。それが「A 会話」です。

### まず質問です。

なぜ日本人は、英語をしゃべれるようになりにくいのか？

順に説明しますが、具体的な方法を紹介する前にまず質問です。

どうして日本人は、英語をしゃべれるようになりにくいのでしょうか？ 一般的に言って、中高大と10年間も、あるいはそれ以上英語を勉強したとしても、英語圏の3才児ほどにも聞かせて話せるようにならないのはなぜでしょうか？

私の答えは「文化」です。英語の文化に入って行かないで、言葉だけを学ぼうとしても身に付くはずがありません。英語を使って遊び、ゲームをし、歌を歌い、…感情の伴う活動をして初めて英語がコミュニケーションの道具になると思うのです。

### 「A 会話 (稲荷塾英会話クラス)」の3つの構成。

では、「A 会話」について記します。「A 会話」は「①レッスン」、「②多読」、「③日々、英語を使う」の3つでできています。

担当は Carmelia。私の知る限り最高の講師です。



Laarni Carmelia Odsey

Carmelia possesses a Development Communications degree from University of the Philippines and hands-on experience in English teaching and tutorial for various levels of learners. She believes that having good conversations is one of the best things about being human.

(フィリピン大学はフィリピンのトップ大学です)

1. 彼女の「レッスン」は英語でゲームをしたり、洋楽の歌詞を埋めたり、遊び感覚の部分がが多く、常に大爆笑が起き、とても楽しい雰囲気です。レッスン中は英語の文化にどっぷりと浸かる感覚で、何より、**驚くほどリスニング力が伸びます。**

2. 次に「多読」です。これはある大学の先生(アメリカ人)のアドバイスによるものですが、1ページに知らない単語が4つ以下であるような簡単な小説をたくさん読みます。大体の目安は100ページ程度の小説を週1冊のペースで読んでいきます。小説の中には日常使う会話も多く含まれており、英語の文化の中に入って、**感覚的に英語が捉えられるようになる**ためです。

私も実際にやってみたところ、初めは英文が2ページ目になると、もう苦痛を感じていましたが、次第に慣れて100ページ程度なら普通に読めるようになりました。



3. 最後に、「日々、英語を使う」です。これはまず、初歩の段階ではCDに合わせてスピーキングの練習をすることに始まり、英語で独り言を言う習慣を作ることや、英語の日記をつけてみるなど、いろんな方法が考えられます。そして練習したことをレッスンでぶつけてみることにより効果が上がります。

この「使うために学ぶ」ということが特に重要で、Carmelia の言葉を借りるならば「日本人はテストのために勉強しているから、なかなか英語ができるようにならない」となります。まず、意識を変えることです。この頃は大学入試でも「聞く、話す、読む、書く」の4技能を問う形に変えていくとする動きが盛んですが「大学入試のために」ではなく、むしろ「英語での会話を楽しむこと」にフォーカスすることが、実は圧倒的に近道なのです。

### 「グルーブレッスン」と「マンツーマンレッスン」

以上述べてきたことと関連しますが、「A 会話」でのレッスンは「グルーブレッスン」が中心になります。その方がゲームをしたり、英語の文化に入っていくのに適しているからです。ただし、「留学を控えていてその準備がしたい」といったような特別な目的がある場合は「マンツーマンレッスン」の方がよいかもしれません。

では最後に、「マンツーマンレッスン」の体験記を紹介しておきます。この方は10年間海外勤務を経験された方で、いわゆる英語がペラペラです。これを読めば、Carmelia の一面がよく分かると思います。(日本語訳は右下)

"It is very difficult to find a good teacher. When I started working, I had chances to have small group English lessons with various English teachers. I then felt that they were just killing time having random conversations. They would not have any other way if they taught English only because they are just English native speakers. (Please suppose that you teach Japanese to foreign people.)"

It might be important to speak English without too much concern for mistakes. However, your English would not be improved without effort to correct mistakes. What would happen then if your English teacher pointed out your mistakes immediately each time after you make them? You would not be able to continue a conversation.

Carmelia types my mistakes while she is having a conversation with me, and she gives me chances to see what is wrong with my comments by showing me my sentences with mistakes at the end of a lesson. Moreover, she sends me these sentences and corrected ones with additional comments by e-mail later. Below is an example.

"I have a sick."  
-> I have a sickness.  
-> I am sick.  
-> I have an illness.  
-> I am ill.



(NOTE: Most people interchange sickness and illness, so using either of the two is fine but some people, especially medical experts, say that sickness refers to a damage to the body while illness refers to an emotional or mental reaction to a sickness.)

It would be impossible to find an English teacher like her even if you searched all over Japan. It is not because there is no English teacher who goes that far but because there is no English teacher who is able to go that far. (裏面に日本語あり)

### A 会話講師 Laarni Carmelia Odsey (ラニ カメルリア オット'スイ)

フィリピンのトップ大学であるフィリピン大学卒業後、様々なレベルの生徒に対して、直接またはオンラインで英会話を指導。抜群の会話能力に加え、英語の文化に溶け込んで行くための豊富なノウハウを有し、レッスンはとにかく楽しい。「A 会話」ではそのようなレッスンと実践的な課題を通して、「聞く話す読む書く」の4技能をバランスよく鍛えるので、短期間で驚くほどの英語力を身に付けられる。

(日本語)「良い英語の先生にめぐりあうことは難しいです。私は若い頃、会社のおかげで様々な英語の先生の少人数グルーブレッスンを受ける機会を得ました。その時、これらの先生はただ雑談して時間を潰しているなという感想を持ちました。これは英語がしゃべれるだけの先生が英語を教えた場合に起こることだと思います。日本語がしゃべれるだけの一般的な日本人が外国人に日本語を教えることになった場合を想像すれば自明です。

間違いを気にしないでとにかく英語をしゃべることは重要ですが、正しい英語をしゃべる努力をしないと英語の上達はありません。Carmelia は私と会話しながら間違いをタイプ打ちして、授業の最後にどこが間違っていたかを考えさせてくれます。また後日、コメントを補足してメールしてくれます。以下はその事例です。

(略)

おそらく日本中を探し回っても Carmelia のような英語の先生を見つけることはできないと思います。そこまでやってくれる先生がいないからではなく、そこまでできる先生がいないからです。」